

自然観察指導員 ～地域の自然を守る輪を広げよう～

自然観察を通して、自然の楽しさや大切さを伝える「自然観察指導員」。地域の自然の魅力をいかした観察会が各地で開かれ、「自然観察指導員」はその担い手として活躍しています。



NACS-J 日本自然保護協会 自然観察指導員とは？

自然観察指導員は地域に根ざした自然観察会を開いていくなかで、自ら自然を守り、仲間をつくる、ボランティアリーダーです。

日本自然保護協会では「NACS-J 自然観察指導員」の養成を35年以上に渡り、全国の地方自治体や自然保護団体などの共催で行っています。

これまでに全国で2万7,000人を超える方が講習会を受講し、自然観察指導員として地域で活動しています。

地域の自然の大切さを伝える 自然観察指導員

自然観察指導員は里山や川、海岸などのさまざまな場をフィールドにして活動しています。そのなかで今回は、四日市市で活動している自然観察指導員の寺田さんについての活動をしていますのか、お話を伺いました。

寺田さんが自然観察指導員になったのは、高校の生物の教員をしていたことがきっかけでした。当時の三重県理科教育センターへ赴任した時、小・中・高の教員を対象にした理科の実験・観察の指導を行う関係で、昭和60年、自然観察指導員講習会を受講したそうです。

寺田さんは中学生の時に参加した臨海実習で磯の生き物を見たことがきっかけとなって、自然に興味を持つようになりました。「机の前に座ったままの授業はしたくない！」という思いから、授業にも実験や実習を積極的に取り入れ、生徒に本物の生態や自然の楽しさを伝えるということを大切にしてきました。

特にこどもたちは、実体験を通して自然というものに触れながら感性を育んでいきます。このような実体験のある自然観察会には、自然の大切さやその価値への気づきが溢れています。

そこで実際に寺田さんたちが行う自然観察会に参加してきましたので、そのようすをご紹介します。



【お話を伺った人】

寺田 卓二さん

(公財)日本自然保護協会 会員
自然観察指導員 三重連絡会 会員
四日市自然保護推進委員会 運営委員
元県立四日市中央工業高校 校長